

1 新型コロナウイルスの影響について

1 現在の学校の現状について

- ・先が見えない、対応が日々変わる中で、児童生徒も教職員も緊張を強いられてきた。
- ・多くの先生方は子どもたちが目の前にいる学級のすばらしさを再確認し、児童生徒も学校で仲間と共に学び成長することのよさを改めて感じ取った1年であった。
- ・部活動の大会が中止になるなど、これまでできていたことができず、残念な思いをした児童生徒も多くいた。
- ・今現在も、部活動の制限があったり、合唱や合奏、調理や実験ができなかったり、教育活動に大きな影響を与えている。
- ・コロナ禍の新しい生活様式にも慣れ、マスクのある生活、手洗い、ソーシャルディスタンスなどを意識した生活をしている。教職員は消毒作業が定例業務となり感染防止に努めている。
- ・給食時は、引き続き、向かい合って話をしながらではなく、一方向を向いて静かに食べている。
- ・不要不急な外出ができず、外での遊びが制限され、家の中でゲームやスマホで遊んでいる児童が多くいる。このような点からも今後の、体力、健康面での影響が心配される。

2 学校行事の実施状況

- ・令和2年度卒業式、終業式については感染拡大防止策を取ったうえで実施。歌唱はなし、時間の短縮。終業式については放送等を活用。又は屋外で間隔をとる等で対応する。
- ・令和3年度入学式についても卒業式と同様に考えている。
- ・修学旅行について、小学校は全校日帰りで実施。中学校については以下のとおり。

富士見台中	延期→4.23~4.25
本郷中	延期→4.25~4.27
東中	延期→4.27~29→7.11~7.13
西中	実施済み
勝瀬中	延期→4.10~4.12
水谷中	延期→夏

3 「心の面」について

- ・いつ、だれが罹患するかわからない不安や、感染予防のため部活動等に制限がかかったりする中で、人とのかかわりが少なくなっている。
- ・家で過ごす時間が長くなり、中には、生活のリズムに乱れが生じ、ゲームやネットをする時間が増え、昼夜逆転から登校渋りが始まるケースも増えてきている。
- ・教育相談室においては、不登校に係る相談が例年より多く、特に学校再開後、8～11月は、昨年度の2.3倍、一昨年度の3倍の相談件数があった。

- ・ 30日以上の欠席者数が、12月現在、昨年度の同時期と比べ、中学校では85%、小学校では148%という結果が出ている。小学校の増加率が高いが、中学校においても本年度、4、5月が臨時休業で全体の授業日数が少ない中での数値と考えると、単純に減ったとは言い切れない現状である。
- ・ 教育委員会としては、このような現状に対し、学校と連携し、児童生徒が必要以上に不安にならないよう、予防法や感染した際の対処法、並びに感染者に対する配慮など、新型コロナウイルス感染症への理解を深めるよう努めてきた。今後も児童生徒の心の変化を見逃さないよう、チェックリスト等を活用し、声かけや傾聴を基本に取り組んでいく。

※その他の対応

- ・ 内容に応じて学年や教育相談部等で組織的に対応する
- ・ 家庭との連携
- ・ スクール・カウンセラーや教育相談室等とも連携・協力

参 考

不登校児童生徒数（30日以上欠席者数：12月末現在）第2回文科省問題行動調査
 令和元年度 小27 中 74件
 令和2年度 小40 中 63件

教育相談室への相談件数（1月末現在/年間）※巡回教育相談含まない
 平成30年度 868/1018件（うち不登校に関する相談：127/146件）
 令和元年度 991/1230件（うち不登校に関する相談：182/201件）
 令和2年度 1106/ ? 件（うち不登校に関する相談：292/ ? 件）

不登校に係る相談件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	5	4	23	8	4	23	14	19	17	10	11	8	146
令和元年度	11	13	24	22	11	22	25	20	16	18	12	7	201
令和2年度	12	10	12	23	18	50	60	52	20	35			292